

# 労協連だより

記録的な大雪と寒さに見舞われた冬もい  
くらか緩み、「春」の気配を少しずつ感じるこ  
の頃。世相も小泉劇場に酔いしれ、バブル再  
来を予感させる雰囲気から、一変「本物」を  
求める機運の高まりを感じる。拮抗する価  
値観の対立は、「本当に大切なものは何か」の  
問い直しである。

年明け早々、各地で決起集会が催されて  
いる。とりわけセンター事業団では、史上最  
高の組合員の結集で、新年のスタートを  
切った。昔風に言えば「動員」と捉えられが  
ちだが、1,200名を超えた参加者の顔は、「決  
起」にふさわしい、颯爽として活気と希望に  
満ちている。けっして一直線の飛躍ではな  
いが、今の苦労や努力の先に、確かな未来と  
自分たちの存在への確信が漲っている。そ  
の傾向は、様々な公共サービスの担い手と  
して、全国で新しい挑戦が始まることによ  
って飛び火している。重要なことは、仕事  
拡大そのものに一喜一憂し、今深めるべき  
確信を見失わぬことだ。その点で過去の仕  
事拡大と決定的に違うのは、「公共サービス」  
の挑戦という、仕事の種別を超えた、「社会」  
と向き合い「地域」を描く取り組みだとい  
うことだ。そこに挑戦できる喜びや期待が  
また、意欲を高め活気と希望を生み出して  
いるように思う。

2～3月は、協同労働を社会的・運動的に  
広げる集中期間となる。ケアワーカー集  
会からICAバブルリーニ会長の来日まで、今

古村伸宏（日本労協連・専務理事）  
の到達点を余すところなく社会に発信し続  
ける、その口火を切る期間として位置づけ  
たい。特に、バブルリーニ会長を困るでの法  
制化を訴える集会（3/16）には、笹森中央  
労福協会長と池上淳先生も登場願ひ、「協同  
労働」とその「法制化」について鼎談的に語  
り合っていただく予定だ。またところを神  
戸に変え、秋の協同集会のプレ企画も予定  
されている。この一連の取り組みは、日本  
の協同組合へ向けた協同労働の発信であり、  
今年「本物の協同組合運動」を問う、そん  
な1年にしたいと思う。

いよいよ介護保険の新しい報酬単価も発  
表となった。これからの高齢者介護がどう  
なっていくのか、まだまだ紆余曲折が予想  
される。介護事業者は生き残りをかけ、新  
たな制度にどう適応し、新たなビジネスチ  
ャンスを狙う。介護の市場化がもたらした  
「負」の部分は、今度の改正では手がつか  
なかつたといっている。しかし、制度のあ  
り方を問い続ける事と同時に、制度に身  
の丈を合わせ、制度の波に揺れ動く存在  
にとどまることなく、制度をリードする  
ような実践こそが問われる時代がやって  
くる。地域福祉事業所は何を実現しよう  
とするのか。そのことを今、全国で考  
え合っている。それが冒頭の活気と希  
望の源泉であると確信する。介護の市  
場化をケアの社会化に転換し、あら  
ゆる世代とすべての生命が関わり合  
い共鳴し合う、そんなコミュニティを  
無数に生み出し、紡ぎ合うこと。その  
実践は「協同

労働」という理念とその担い手によって、大きな前進と確かな事実を広げることを証明したい。

一番大切なものは何か、それは「本物」を求め、見極めることで見えてくる。本物の「労働」「暮らし」「地域」そして「生命」。一步でも本物に接近する冬にしよう。

## 研究所たより 研究所たより

協同総研では2年に1度会員名簿の更新をしています。昨年新しい名簿を作成するにあたり会員みなさんに名簿情報の確認をさせて頂きました。その際、ご返信いただいたハガキのメッセージ欄にお書きいただいた会員みなさんの近況をご紹介します。また、この間、新規の会員が増加していますが、入会に当たっていただいたメッセージも合わせてご紹介します。

### 名簿変更届より

奈良県奈良市 林 彌富 さん

勤務先は70歳になり、05年4月より無所属になっています。研究分野は、社会変動論、階級論です。研究費によるグループでの過疎地の超高齢者福祉調査に参加。今年から新たな3年間の調査が始まりました。これまでの専門分野は大阪外大時代の講義科目の一つでした。いま新たな研究体制の軌道をつくりつつあります。

埼玉県吉川市 池田 竜平 さん

いつも協同の運動の勉強をさせて頂いております。様々な実践の経験が、理論とともにもっと豊かになるよう頑張りたいと

思います。研究所のご発展をお祈り申し上げます。

大阪府箕面市 北川 恭子さん

とても難しい雑誌です。少しずつ勉強させて頂きます。編集後記が楽しみです。

東京都江戸川区 杉本 時哉さん

グローバル化とともに人類社会の著しい変化、国際秩序の流動化、人間崩壊の現因と対応策、根本に歴史観、哲学の再検討・調整の必要を痛感します。“協同”の原理を普及する「認識論」の深耕が必要。

東京都豊島区 森山 千賀子さん

日本にかつてあった付添婦制度との関連で韓日の看病人制度のことを調べております。そのうちご相談に伺うかもしれませんので、宜しく願いいたします。

企業組合 労協ながの

いつもお世話様です。協同労働法制化に向けて一緒に運動を盛り上げていきましょう。我々も内実を高め、発信を強めていきます。協同集会の活動を系統的に追及していきます。共にがんばりましょう。

## 新規会員より

東京都墨田区 相良 孝雄 さん

実践等を協同労働の視点から研究して頂ければと思います。時間がゆるす限り、私も研究会等に参加させていただければと思います。

青森県八戸市 前山 総一郎 さん

お世話になります。宜しくお願ひいたします。アメリカが専門ですが、皆さま協同労働について一緒に深めてゆければと思います。よろしくどうぞ。

千葉県千葉市 岩橋 百合さん

社会的経済 田中夏子先生 労協 協同総研へとたどりつきました。研究者ではありませんが、社会的経済に関心をもっています。高齢協、生活クラブ生協、市民ネットの会員です。

静岡県浜松市 鈴木 修 さん

1992年より黄柳野高校の設立準備委員をしておりました。家庭の事情で黄柳野を離れ、現在は地元の静岡県浜松市で障害者の就労を支援するジョブコーチをしております。

静岡県は以前から、協同に関する動きが見られず、情報があまり入ってこない状況です。(私のネットワークが狭いだけかもしれないが.....)

障害者就労に関わりその家族のサポートをしていると、やはり協同の組織の必要性を痛感します。

全国各地には、様々な協同の組織があると思いますが、静岡の地で少しでも前に進

んでいきたいと思っています。色々教えてくださいたいと思います。宜しくお願いします。

会員のみなさんのご意見、ご感想、お叱り、励まし、近況報告、ご投稿など随時募集しております。お気軽にお送りください。

菊地 謙

### 【お知らせ】協同総研特別セミナー 協同組合の視点から見た労働 と社会開発

ICA バルベリーニ会長と語る

ICA (国際協同組合同盟) の現会長 I・バルベリーニ氏が日本労働者協同組合連合会の招きで来日します!

発展する世界の協同組合運動をリードするバルベリーニ会長と共に語るセミナーを開催しますので、ぜひご参加ください。

日 時 2006年3月16日(木)  
14:30 ~ 16:30

会 場 明治大学 駿河台校舎研究棟  
4F 第1会議室  
(東京都千代田区神田駿河台1-1)

内 容

- ・ワーカーズコープの事業・運動 イタリアの協同組合運動に学ぶこと
- ・話題提供 菅野正純(日本労働者連)
- ・コメントとお話  
I・バルベリーニ ICA 会長
- ・質疑